

かしそく新聞

～訪問診療 編～

「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します！

【認知症の治療に関して②】

〔アルツハイマー型認知症に対する新薬〕(①からの続き)

●治療対象となる早期ないし軽度認知症の診断のためには、物忘れ健診などで早期に発見してもらう必要がありますが、残念ながら多くの場合は年齢相応の「物忘れ」ではないかと考えているうちに、治療開始時期が遅れてしまうことが多いように感じます。

〔現在のアルツハイマー型認知症の中核症状に対する治療薬〕

●3種類のCHE阻害薬(アセチルコリンエステラーゼ阻害剤)と1種類のNMDA受容体拮抗薬があり、治療ではCHE阻害薬の1種類とNMDA受容体拮抗薬の1種類を単独ないし併用で使用することとなります。

4つの抗認知症薬の効果

日本では、主に下記の4つの抗認知症薬が使われています。いずれも認知症の度合いや現れる症状などによって、医師の診断のもと処方されます。それぞれの特徴は以下の通りです。

薬品名	期待できる効果	注意事項	主な副作用
CHE 阻害薬			
①アリセプト [®] (塩酸ドネペジル)	記憶障害の緩和	不整脈など心臓疾患を合併している場合には使用に注意	吐き気・嘔吐・食欲不振・下痢・興奮
②レミニール [®] (ガランタミン)	記憶障害や見当識障害を抑制		吐き気・嘔吐
③イクセロンとリバスタッチパッチ [®] (リバスチグミン)	記憶障害の緩和	心臓病、胃潰瘍、気管支喘息、パーキンソン病、てんかんのある人は慎重投与	かゆみ・発疹・胸の痛み・頭痛
NMDA 受容体拮抗薬			
メマリー [®] (メマンチン)	中核症状の緩和	腎臓の悪い人は慎重投与 CCr30ml/min未満は10mg	めまい・便秘・意欲低下

(※表は「みんなの介護」より引用)

【駒形清則医師(認知症サポート医) ③に続く】

かつしか心身総合クリニック

～編集後記～スタッフのつぶやき～

☆猛暑が続いていて、食べ物がないのでしょうか。クマの被害が相次いでいます。実家のX市でも、市街地から車で10分ほど行ったところに出没し、住民を不安に陥れています。クマの怖さは、その爪にあります。爪を立てたまま自分の全体重を支え、四つ足で歩けるほど頑丈な爪です。それで顔面を狙われたら、ひとたまりもありません。報道では「命に別状はない」と記載されていますが、耳や鼻が削がれたり、目を失ったりとかなりの重症で、障害が残ったり、後遺症に悩まされる人が多いそうです。難題ではありますが、まずは人命優先でお願いしたいものです。(K)

医療法人財団ファミーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町1-41-1 桜井ビル2階

① ☆外来：心療内科＝永井斐子院長

内科＝駒形清則医師

② ☆訪問診療

内科＝駒形清則医師、駒形明紀医師

精神科＝米谷充医師

神経内科＝西岡健弥医師、平井健医師

※詳しくはホームページをご覧くださいか、お電話にてお問い合わせ下さい。

電話 03-3627-0233